

お金の計算ができなくなっている…

⇒よく行く店には事情を話しておきましょう

【 認知症の人の状態 】

とよさと病院 認知症疾患医療センター

記憶障害が進むと、**計算力も低下**してきます。とくに、引き算が難しくなるので、いくら支払えばいいのか見当がつかず、少額の買い物でも毎回紙幣を出して、つり銭は使わず、たまる一方というケースがあります。紙幣がなくなると、小銭があっても「お金がない」と言ったりします。お金を支払うことを覚えていればいいのですが、**支払わなければならないこともわからなくなると**、商品を勝手に持ち出してしまったりして、万引き沙汰になることもあります。

買い物で起こしやすいその他の問題には、“店までの行き方がわからない” “何を買うか忘れる” “よく行く店でも商品やレジの場所がわからなくなる” “同じものや不必要なものを何個も買い込む” などがあります。

【 対応方法 】



①一人で買い物に行けているからと安心せず、小銭ばかりたまっていないかなど、**ときどき財布やかばんをチェック**しましょう。問題がありそうなら**買い物に同行し、うまくできなくなっている部分だけをサポート**するようにしましょう。

②何度もこのようなことがある場合は、本人がよく行く店や行きそうな店に、あらかじめ写真や診断書を見せて**事情を話し**、「レジはこちらですよ」などと声をかけてもらうようにしましょう。品物を持ち出してしまったら連絡してもらい、家族が謝りに行って品物を返すか、お金を払うなど**対処法を相談**しておきましょう。

③万引きで警察に捕まったとしても、認知症専門医の鑑定があり、認知症による心神喪失と認められて無罪か軽い処分で済むこともあります。

④自治体によっては、認知症の人の買い物に同行する支援を行っている事業者を紹介している場合もあります。その他、店や地域の人々に認知症について理解してもらい、認知症の人が安心して買い物できる町づくりを目指すNPO法人などもあります。住んでいる地域の**役所や地域包括支援センター**などで、サポート企業やサービスを探し、利用するのもいいでしょう。